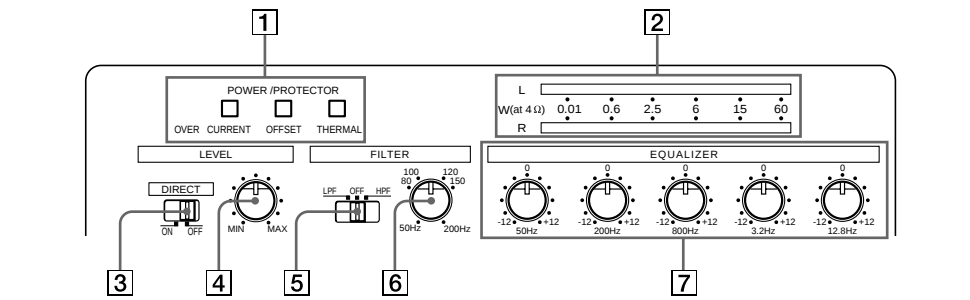


主な特長

- 最大出力120 W×4の余裕あるパワー（4Ω負荷）
- デジタルソースに対応する広いダイナミックレンジ、低ひずみ率（0.005％）
- 最大出力300 W×2のハイパワーが得られる2チャンネルパワーアンプとしても使用可能（ブリッジ接続）
- アンプ内部の温度上昇やスピーカー保護のための保護回路内蔵
- 安定した電源を供給する高効率パルス電源*を採用
- ラインアウト端子を持たないカーオーディオのスピーカー出力をダイレクトに接続することができるハイレベルインプットを搭載
- ローパスフィルター、ハイパスフィルターおよび5バンドのイコライザー回路を内蔵
- フィルターおよびイコライザー回路をパスし、より高音質が楽しめるソースダイレクトスイッチを搭載
- 左右の出力レベルが視覚的に確認できるパワーレベルインジケーター搭載

* パルス電源
DC12Vのバッテリー電源を半導体スイッチによって高速パルスに変換し、それをパルストランスで昇圧、さらに⓪⓪電源にふり分けたあと再び直流（DC）に戻すコンバーターのことで、小型軽量で、低出力インピーダンスを有する特性をもっています。

各部の名称と働き



- ① **POWER/PROTECTOR (電源/保護回路) インジケーター**
オーバーカレント
• OVER CURRENT：本機の動作中、緑色に点灯します。異常に大きな音が入ったときに赤色に変わります。
オフセット
• OFF SET：本機の動作中、緑色に点灯します。出力端子（スピーカー端子もしくはピンジャック）に異常電圧が出たときに赤色に変わります。
• THERMAL:本機の動作中、緑色に点灯します。アンプ内部の温度が異常に高くなったときに赤色に変わります。

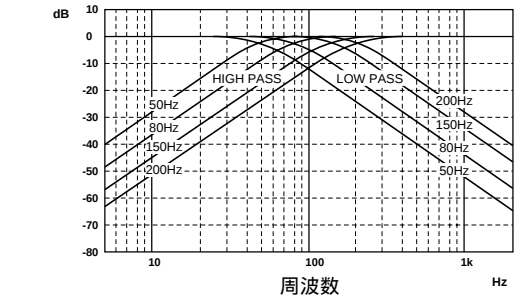
- ② **パワーレベルインジケーター**
左右の出力レベルの状態を表示します。インジケーターの目盛りは、接続したスピーカーのインピーダンスが4Ωの場合の出力です。

- ③ **DIRECTスイッチ**
ONにすると、ローパスフィルター、ハイパスフィルターおよびイコライザー回路を通さなくなります。

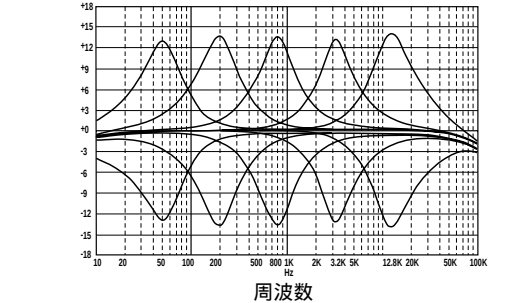
- ④ **LEVELつまみ**
他社のカーオーディオなどを接続する場合、このつまみで入力レベルを調節します。入力レベルが小さい場合はMAXの方向に、大きい場合はMINの方向につまみを回してください。ノイズを少なくしたい場合には、レベルつまみ（ゲイン）をMINの方向に回し、音量はカーオーディオのボリュームで調整してください。

- ⑤ **FILTER選択スイッチ**
LPF側にするとローパス（低音域通過）フィルターがかかり、HPF側にするとハイパス（高音域通過）フィルターがかかります。DIRECTスイッチをONにするとフィルターはかかりません。

- ⑥ **カットオフ周波数設定つまみ**
ローパスまたはハイパスフィルターをかけた場合のカットオフ周波数（50～200Hz）を設定します。
周波数特性（代表例）



- ⑦ **EQUALIZERつまみ**
5バンド（50、200、800、3.2k、12.8kHz）のイコライザーの調整を行うことができます。



接続システム別の各スイッチの設定（接続によってスイッチの位置を切り換えてください。）

スピーカー接続（「接続」を参照）	DIRECT	FILTER	EQ
・4スピーカーシステム	ON	—	—
・2スピーカーシステム	OFF	OFF	お好みの位置
・3スピーカーシステム	フルレンジスピーカー	OFF	HPF
・2ウェイシステム	サブウーファー	OFF	LPF

ご注意
HPF/LPFおよびEQUALIZERをご使用にならない場合は、DIRECTスイッチをONにした方がより良い音質でお聴きいただけます。

ご注意

設置上のご注意

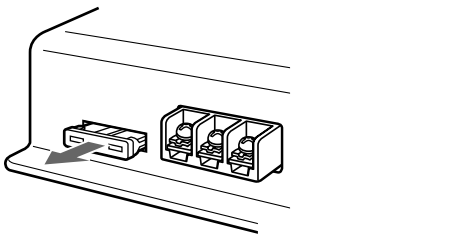
- 本機は12ボルトマイナスアース車専用です。大型トラックや寒冷地仕様のディーゼル車など、24ボルト車では使えません。
- 次のような場所への取り付けはお避けください。
 - 直射日光が当たる場所、ヒーターの熱風を直接受ける場所など、温度が極端に高いところ
 - 雨が吹き込んだり、水がかかったりする場所や湿気の多いところ
 - ほこりの多いところ
- 水平に取り付けて使用するときは、ヒートシンク面を上にして取り付けてください。ヒートシンクの上にマットやカーベットをかけないでください。
- 本機にはDC-DCコンバーターを使用していますので、ラジオやアンテナの近くに取り付けると、ラジオやテレビ放送の受信に障害をおよぼすことがあります。なるべく離れた位置に設置してください。
- 運転の妨げにならない場所で、同乗者に危険が およばないところを選んで取り付けてください。
- 取り付けと接続が終わったら、ブレーキランプやライト、ホーン、ウインカーなどすべての電装品が正しく動作することを必ず確認してください。

使用上のご注意

- 窓を閉めきった自動車を直射日光下に放置すると、車内は相当な高温になります。このようなときは、車内の温度を下げてからご使用ください。
- 次のような場合には、出力トランジスターやスピーカーを保護するため、アンプ内部の保護回路が働き、POWER/PROTECTORインジケーターの色が緑から赤に変わり、スピーカーから音が聞こえなくなります。
 - アンプ内部の温度が異常に高くなった場合
 - 異常が発生してDC電圧が発生した場合
 - 出力端子がショートした場合このような場合には、すぐに接続してある機器の電源を切り、異常の原因をお調べください。温度上昇が原因と考えられる場合は、しばらく放置して本機の温度を下げたからお使いください。
- 弱ったバッテリーで使用しないでください。本機の性能は電源の状況に左右されるため、十分に性能を発揮できません。
- 安全のため、運転中は車外の音が十分聞こえる程度の音量でご使用ください。

ヒューズの取り換えかた

ショートしたときや、本機に故障があるときは、ヒューズが切れ、本機に過大電流が流れることを防ぎます。ヒューズが切れた場合は、電源コード、アースコードの接続を再確認してからヒューズを交換してください。交換したあとすぐ切れる場合は、お近くのソニーサービス窓口にご相談ください。

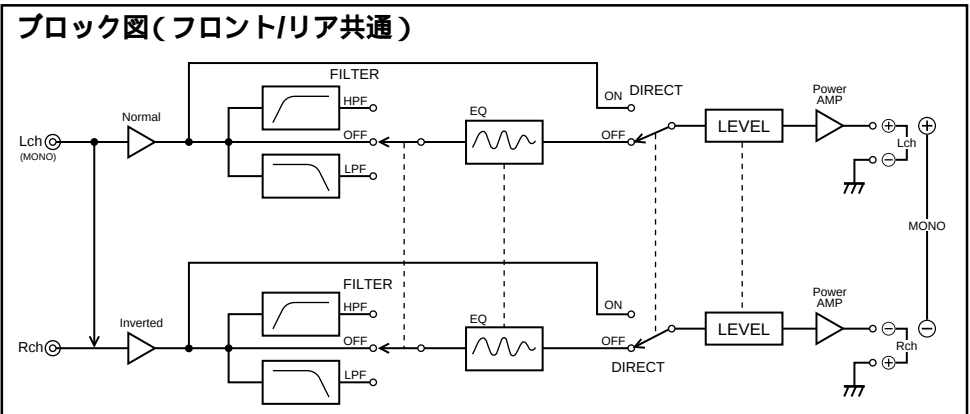


ご注意
指定のアンペア数のヒューズ以外はお使いにならないでください。故障の原因になります。

故障かな？と思ったら

症状	原因（処置）
POWER/PROTECTORインジケーターが点灯しない。	ヒューズが切れている。→ヒューズを交換する。 アースコードが接続されていない。→車体の金属部にしっかり接続する。 本機のリモート端子への入力電圧が発生していない（または低い）。 • 接続しているカーオーディオの電源が入っていない。 →電源を入れる。 バッテリーの電圧が適切であるか（10.5～16V）確認する。
OVER CURRENTインジケーターが赤色に点灯する。	スピーカー出力がショートしている。 →ショートの原因を取り除く。
OFF SETインジケーターが赤色に点灯する。	電源を切り、スピーカーコードおよびアースコードがきちんと接続されているか確かめる。
THERMALインジケーターが赤色に点灯する。	• 適合インピーダンスのスピーカーを使用する。 • 風通しの良い場所へ移設する。
オルタネーターの雑音が入る。	電源コードがRCAピンコードに近い。→RCAピンコードから離す。 ピンコードが車両ハーネスに近い。→離して配線する。 アースが不十分である。→車体の金属部にしっかり接続する。 スピーカーの端子が車体に接触している。→車体から離す。
音がこもる。	FILTER選択スイッチが「LPF」になっている。
音が小さい。	LEVELつまみが「MIN」になっている。
HPF、LPF、EQが効かない。	DIRECTスイッチが「ON」になっている。
音が出ない。	各選択スイッチが完全に切り替わっていない。

以上の処置を行っても効果が見られないときは、接続に問題があるか、故障と考えられます。お買い上げ店またはお近くのソニーサービス窓口にご相談ください。



取り付け

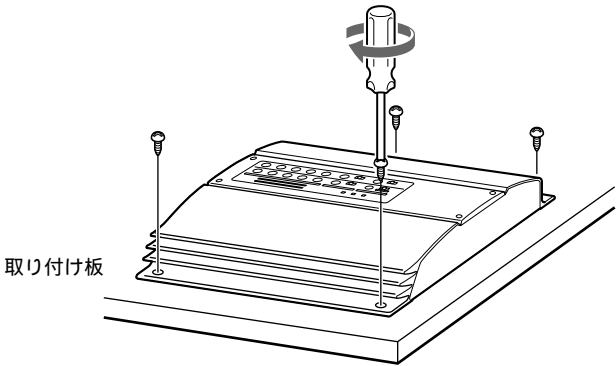
取り付ける前に

- 本機は、トランクルームまたはシートの下に取り付けてください。
- 本機を取り付けるには、十分な厚み (15mm以上) と強度をもつ取り付け板が必要です。
- 水平に取り付ける場合、カーペットの下は放熱効果が著しく減少しますのでお避けください。

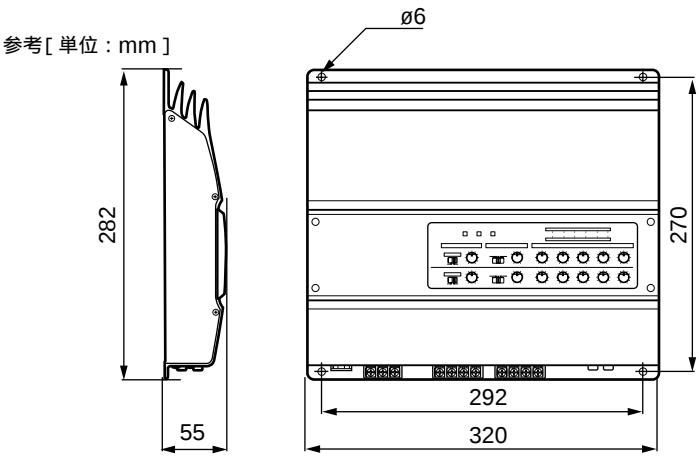
ご自分での取付け、接続が難しいときは、お買い上げ店、またはカーディーラーにご相談ください。

取り付けかた

- 十分な厚み (15mm以上) と強度をもつ取り付け板をご用意ください。
- 取り付けは通風口をふさがないように行ってください。



本機を取り付け板にあて取り付け位置を決め、穴の位置に印をつけます。次に、印をつけたところに直径3mm以内の穴をあけ、付属のビスを使って本機を取り付け板に固定します。

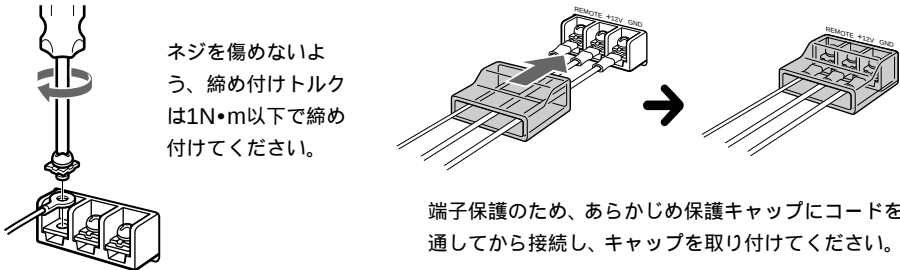


接続

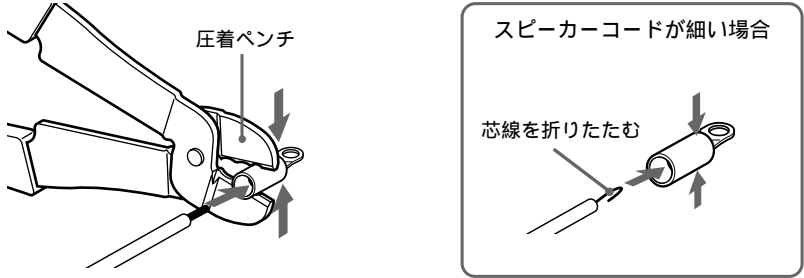
接続する前に

- この取扱説明書 (取り付けと接続、取付、接続) に記載されている取り付け、接続先の機器は、全て別売り品 (市販品) です。 (付属品は除きます。)
- 作業中のショート事故防止のため、本機の電源コードの接続は、必ずイグニッションキーをOFFにして行ってください。
- 電源コードは必ず最後に接続してください。
- 入出力コードと電源コードを近づけて配線するとノイズが出ることがありますので、できるだけ離して配線してください。
- 本機はハイパワーアンプのため、車に既設のスピーカーコードを使うと性能が十分に発揮されないことがあります。
- スピーカーの⊖側を車のシャーシなどに接続したり、スピーカーの⊖側どうしを接続したりすると故障の原因になります。
- 十分な許容入力を持つスピーカーをお使いください。このアンプは大出力が得られますので、許容入力の小さいスピーカーを使用すると、アンプの性能が十分に発揮されないばかりでなく、スピーカーを破損することがあります。
- インピーダンス2～8Ωのスピーカーをお使いください。
- 本機のスピーカー端子にアクティブスピーカー (アンプ内蔵のスピーカー) を接続しないでください。スピーカーを破損する恐れがあります。

下図のように、コードを接続してください。

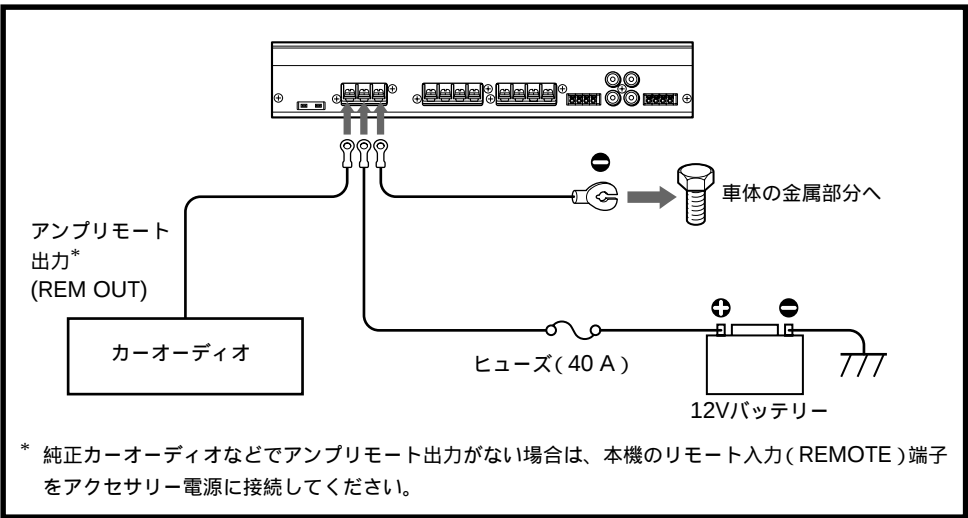


下図のように、付属の圧着端子をスピーカーコードに取り付けてください。



使用するスピーカーコードが細く圧着端子の内径に余裕がある場合、芯線を折りたたんで太さを調節してから圧着ベンチでしっかりかしめてください。

電源コードの接続

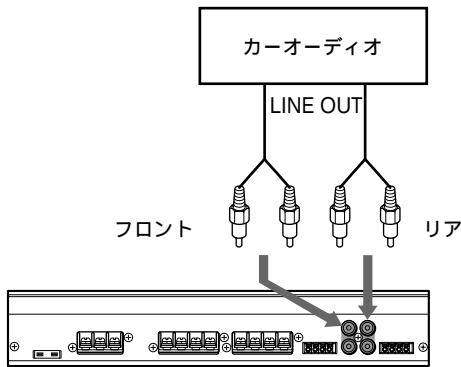


ご注意

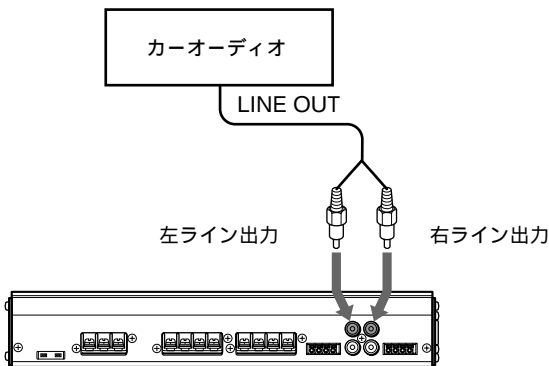
- 電源コードはすべての接続を済ませてから、一番最後に接続してください。
- パワーアンプのアースコードは車の金属部分に確実に接続してください。確実に接続しないと、故障の原因になることがあります。
- カーオーディオのリモート出力コードを本機のリモート入力 (REMOTE) に接続してください。カーオーディオにアンプリモート出力がない場合は、車のアクセサリ電源と本機のリモート入力 (REMOTE) 端子を接続してください。
- 車のバッテリーから直接電源をとる (車のバッテリーから直接、本機の電源端子 (+12V) 端子に配線する) 場合、使用する配線コードは太さ10ゲージ (AWG-10、断面積5 mm²) 以上のコードを使用し、可能なかぎりバッテリーに近い位置に必ずヒューズ (40 A) を配置してください。
- 別売りの電源コードRC-46をご使用になるときは、そちらの説明書をご覧ください。

インプット接続

A ラインインプット接続（スピーカーの接続1、2または4の場合）

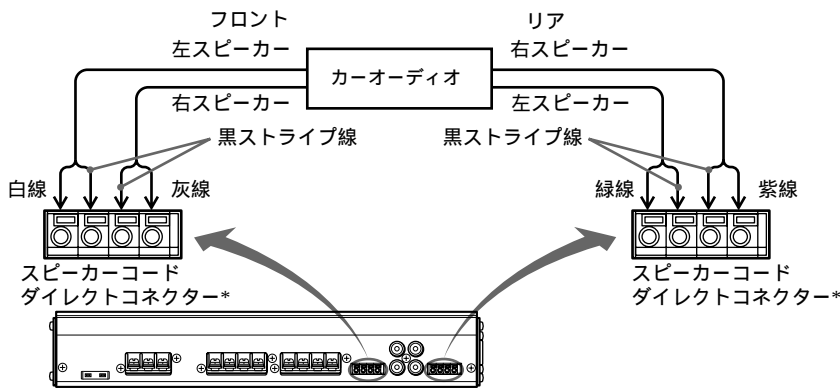


B ラインインプット接続（スピーカーの接続3の場合）



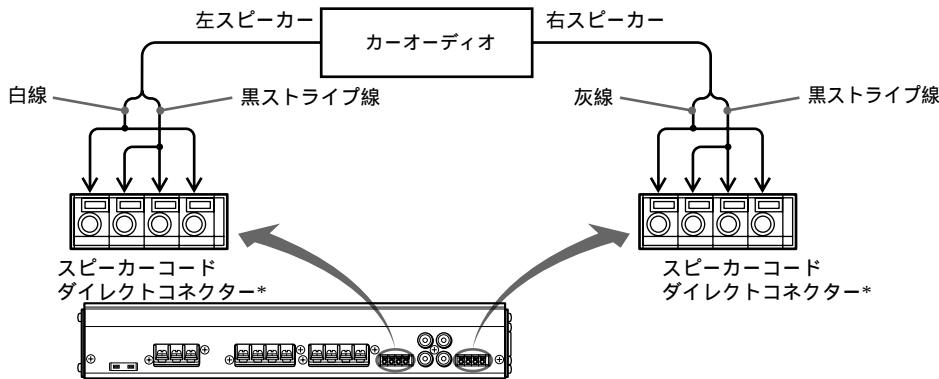
ご注意
カーオーディオのラインアウトはL（MONO）端子につないでください。

C ハイレベルインプット接続（スピーカーの接続1、2または4の場合）



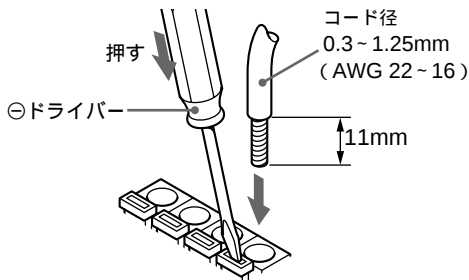
*コードの接続は「スピーカーコードダイレクトコネクターへの接続」をご覧ください。

D ハイレベルインプット接続（スピーカーの接続3の場合）



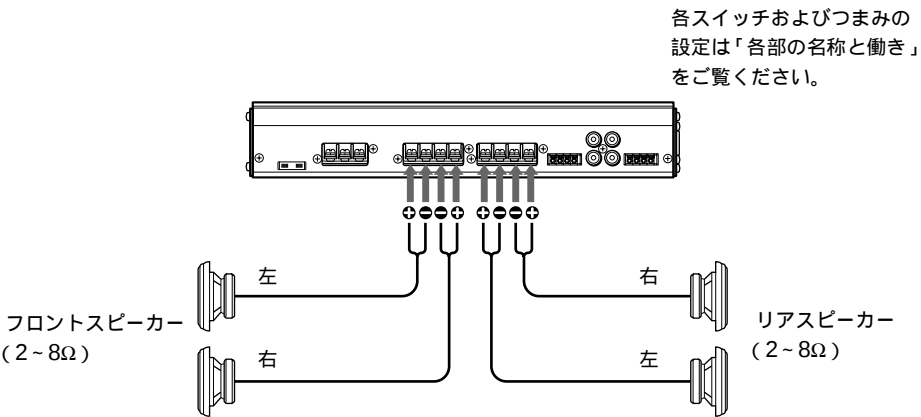
ご注意
カーオーディオの右スピーカー出力はREAR、左スピーカー出力はFRONTにつないでください。
*コードの接続は「スピーカーコードダイレクトコネクターへの接続」をご覧ください。

スピーカーコードダイレクトコネクターへの接続

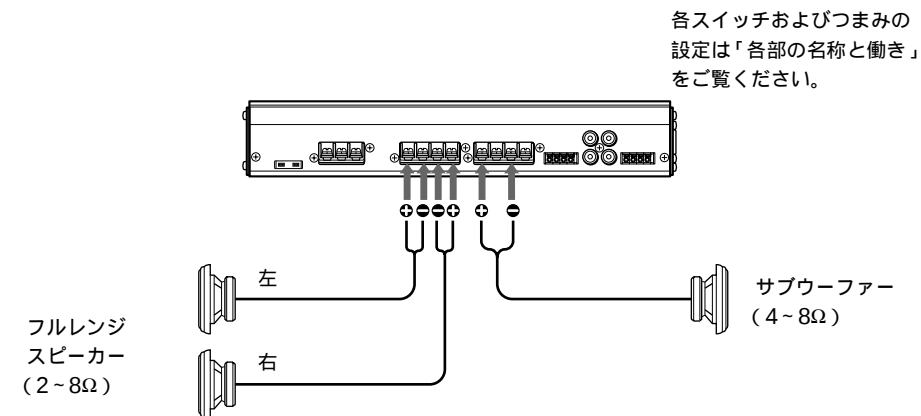


スピーカー接続

1 4スピーカーシステム（インプット接続AまたはCの場合）

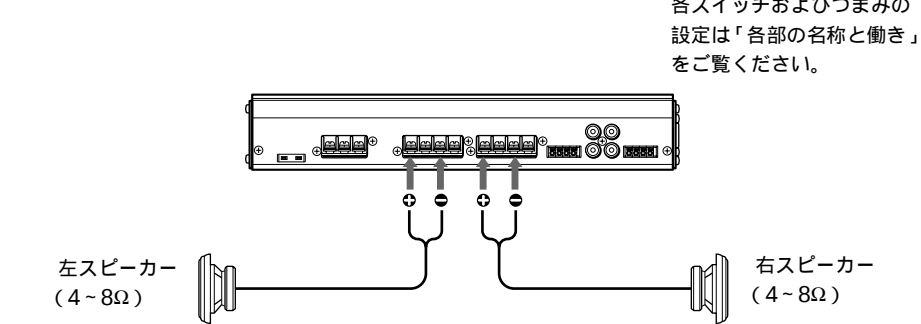


2 3スピーカーシステム（インプット接続AまたはCの場合）

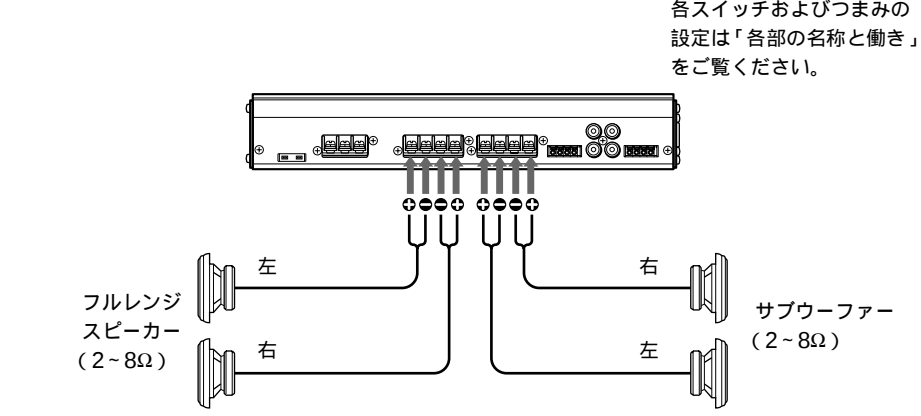


ご注意
•この接続では、サブウーファーの音量をカーオーディオのフェーダーで調節することができます。
•この接続では、サブウーファーの音はREAR L端子とR端子に入力された信号を合わせたものになります。

3 2スピーカーシステム（インプット接続BまたはDの場合）



4 2ウェイシステム（インプット接続AまたはCの場合）



ご注意
この接続では、サブウーファーの音量をカーオーディオのフェーダーで調節することができます。